

瀬田東小の校訓

～誠実で心優しく強い人に育つために～  
□心を込めて「あいさつ」します  
□額に汗して黙々と「そうじ」をします  
□目と心と耳で「聴き」ます



瀬田東小だより  
ふれあい 創造 健康  
(豊かな心) (確かな学力) (たくましい体)

令和4年4月21日

児童数 948名

学級数 35学級

【文責：校長 内藤 康司】

令和4年4月8日、158名の新入生を迎え全校児童949名で、瀬田東小学校がスタートしました。教育目標の実現に向けて、教職員一丸となって取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### <教育目標>

心身ともにたくましく、ひととの交わりを大切に、新しいものを創り出そうとする子どもの育成

#### <瀬田東の子ども像>

- ふれあい(豊かな心) …人のために進んで行動する子ども
- 創造(確かな学力) …対話を重ねて育つ子ども
- 健康(たくましい体) …自らを鍛える元気な子ども

#### <学校経営の基本方針>

地域に根ざし、地域とともに、保護者と手をたずさえ、安全で、規律正しく、よく学びよりよく育つ学校を目指します。

#### <目指す学校像>

～みんな笑顔で大切にされる学校～

- 子どもたちが「学びたくなる学校」
- 保護者が「通わせたい学校」
- 地域が「誇りに思う学校」
- 教職員が「勤めたい学校」

#### <校訓について>

##### <校長あいさつ(始業式)の一部抜粋>

さて、新学期を迎えるにあたり、瀬田東小学校で受け継ぐ「3つの校訓」についてお話をします。

一つ目は、「目と心と耳で人の話をきちんと聴く」ということです。先ほどから皆さんの様子を見ています、話の聞き方が大変上手なことに感心していました。なぜ、人の話はきちんと聞かなくてはならないのでしょうか？皆さんは、自分がどのようにして言葉を覚え、話ができるようになったか知っていますか？それは、皆さんが生まれたばかりの時から、周りの大人の人たちが、皆さんにたくさん話しかけ、皆さんは一生懸命、その言葉を聞いてきたからです。話を聴く、ということは賢くなるための「はじめの一步」です。そして、相手を大切にすることにもなります。今、校長先生は、皆さんが目と心と耳で一生懸命に話を聴いてくれていることで、皆さんからとても大切にされている気持ちになっています。瀬田東小学校が目指している「対話を重ねて育つ子ども」になるためには、まず、先生や友達の話を「目と心と耳」でしっかり聴くようにしてください。

二つ目は、「心を込めて、あいさつをする」ということです。挨拶という言葉の「あい」は「心を開いて近づく」という意味です。そして、挨拶の「さつ」は「迫る」とか「近づく」という意味です。つまり、挨拶とは「心を開いて相手に近づく」ということです。挨拶は、お互いに仲良くなるためにとても大切なことです。そして、挨拶は自分から進んでやることに意味があります。こんにちは、ありがとう、など、いろいろな挨拶がありますが、学校や地域で、言葉とともに、きちんと立ち止まって、丁寧な会釈も添えて挨拶する姿は大変美しいと思っています。心を込めた丁寧な挨拶は瀬田東小学校の自慢です。廊下や道でお世話になっている人や目上の人にお会いしたときは、立ち止まって会釈のできる子どもになってください。これができるようになると、瀬田東小学校が目指す相手の存在に気付き、大切に「心優しい子ども」に近づくことになります。

そして最後の三つ目は、『額に汗して黙々と「そうじ」をする』という事です。1年生のみなさん、この前の入学式の体育館も教室も廊下も靴を置くところもとてもきれいだったでしょ。目の前にいる6年生が皆さんのために心を込めて掃除してくれたからです。その人のために働く姿を、新しく来られた方々は感心して見ておられました。ほめておられましたよ。6年生のみなさん、ありがとう。これが、瀬田東小学校が目指す「人のために進んで行動する子ども」なのです。

以上、三つの校訓について話をしましたが、今、お話したことは、皆さん一人一人にとって大切なことです。今年一年、あいさつと笑顔あふれる学校、人のために力を尽くし、みんなですばらしい瀬田東小学校をつくっていきましょう。

※あいさつでは触れていませんが「自らを鍛える元気な子ども」については、体育科学習の充実、健康教育(食育を含む)の推進に取り組み、体力づくり・健康づくりに努めていきます。

※月予定については、これまでは学年通信に掲載しておりましたが、今後は「瀬田東小だより」にてお知らせしていきます。(裏面)